

平成20年度一般会計決算のすがた

確定版

(下線部が速報値から変更のあった数値)

決算の全体像

- ◇ 歳入は、4,562億円。(対前年度比 +24億円)
- ◇ 歳出は、4,531億円。(対前年度比 +28億円)
- ◇ 財政調整基金、県債管理基金の取り崩しと、退職手当債等の発行により、収支不足に対応。

$$\left[\begin{array}{rcl} \text{歳入} & - & \text{歳出} - \text{翌年度へ繰り越した事業に必要な財源} = 9\text{億円} \\ 4,562\text{億円} & & 4,531\text{億円} \quad 22\text{億円} \end{array} \right]$$

歳入の状況

- ◇ 県税、地方交付税(その振替である臨時財政対策債を含む)等の主要な一般財源は、⑲3,175億円から⑳3,142億円に減少(△33億円)。

歳出の状況

- ◇ 人件費は、⑲1,692億円から⑳1,657億円に減少(△35億円)。
- ◇ 公共事業などの普通建設事業費は、⑲783億円から⑳727億円に減少(△56億円)。
- ◇ 後期高齢者医療給付など主な社会保障関係経費は、⑲366億円から⑳388億円に増加(+22億円)。
- ◇ 公債費は、臨時財政対策債の償還が本格化したことなどにより、⑲696億円から⑳721億円に増加(+25億円)。

収支不足への対応と基金、県債残高の状況

- ◇ 当初予算時の収支不足額は251億円。
- ◇ 決算時の収支不足額は154億円(△97億円)。
 - 歳出削減の取り組みなどにより、当初予算時より圧縮
- ◇ このため、基金(財政調整基金、県債管理基金)の取り崩し(69億円)と、退職手当債等の発行(94億円)により収支不足に対応。
 - 対応後の収支は9億円の黒字。
- ◇ この結果、
 - ・ 財政調整基金及び県債管理基金の残高は、
 - ①9年度末 387億円から②0年度末 366億円に減少(△21億円)。
 - ・ 県債残高は①9年度末9,828億円から②0年度末9,860億円に増加(+32億円)。

財政状況の指標

- ◇ 一般会計のほか特別会計等の決算額を含め、財政状況の指標を算定。

※表中の〈 〉の数値は、法律により財政健全化計画等の策定が義務付けられる基準

- ◇ 資金繰りの状況を表す指標

指標の種類	②0本県数値	備考
公営企業等を除く会計の赤字の比率(実質赤字比率)	黒字のため「－」	<3.75%>
全ての会計の赤字の比率(連結実質赤字比率)	黒字のため「－」	<8.75%>
公債費の比重を示す比率(実質公債費比率)	11.8%	<25%>

- ◇ 負債の状況を表す指標

指標の種類	②0本県数値	備考
県債残高だけでなく公営企業会計や公社・3セクの負担も含めた、一般会計が将来負担すべき負債の比率(将来負担比率)	<u>252.2%</u>	<400%>

- ◇ 本県の指標は、いずれも基準に該当する状況には至っていないが、財政調整基金及び県債管理基金残高の減少、県債残高の増加という状況を踏まえ、これまで以上の歳入確保、歳出削減に向けた取り組みが必要。